

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	世界史A	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書 世界史A (清水書院)

2 科目の目標

世界史の大きな流れと地域的なまとまりや同時代の横のつながりを基本にしながら、世界史の全体像をつかむ。こうした学びをもとに、これから私たちが進んでいく道を考え、あたらしい時代を開いていく姿勢を身につけていく。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	アジアの諸文明	定期考査①	13
	5月			
	6月	ヨーロッパの文明	定期考査②	15
	7月	拡大する欧米の衝撃と ゆれるアジア・アフリカ	定期考査③	15
8月				
9月				
後 期	10月	世界戦争の時代	定期考査④	18
	11月			
	12月	現代世界と地球社会への 歩み	期末考査⑤	17
	1月			
	2月			
3月				

4 評価の方法

世界の歴史の大きな流れや各時代の特色を把握することができたかを確認する。授業について、主体的に取り組んでいるか、出席や授業態度、提出物、考査などから総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 授業の欠課・遅刻をしないこと。
プリントをしっかりと記入し、学習に活用すること。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 : 世界史B	単位数 : 4単位
------------	-----------

1 教科書・副教材

高校世界史改訂版(山川出版社)

2 科目の目標

古代から現代に至る世界の各地域の歴史と文化を詳細に学ぶことで、現在の世界情勢を理解するとともに、今後の世界についての思考を深める。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	人類の出現	定期 考査①	26
	5月	オリエント世界 南アジア世界 東南アジア世界 東アジア世界		
	6月	中央ユーラシア 東アジアの変動 イスラーム世界	定期 考査②	30
	7月	ヨーロッパ世界 ユーラシア大帝国の出現 東アジア地域の繁栄と成熟	定期 考査③	30
	8月			
9月	大航海時代 ルネサンス 主権国家体制			
後 期	10月	産業革命 環大西洋革命	定期 考査④	36
	11月	イギリスの覇権と欧米の国 民国家 アジアの変容		
	12月	帝国主義 世界大戦の時代	期 末 考 査⑤	34
	1月			
	2月	東西冷戦から多極化へ グローバル化の進行		
3月				

4 評価の方法

古代から現代にいたる世界各地の情勢について理解を深め、自分の歴史観を持つことで、現在の世界情勢と自分たちの生活について考えることができたかを、授業中の発言や考査、提出物等で総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ※
- ・ 授業には欠席や遅刻をせず毎回きちんと出席すること。
 - ・ 授業の内容をしっかりと聴き、ノートをとって学習を深めること。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 : 日本史A	単位数 : 2単位
------------	-----------

1 教科書・副教材

教科書 新日本史A (実教出版)

2 科目の目標

日本の近代史・現代史を学ぶことにより、現代の日本と世界が直面している政治、経済、社会、文化等の課題について、自分なりの見方、考え方ができるようになる。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	近代国家と社会の形成	世界と東アジア 近代国家の誕生 近代社会の形成	定期考査①	13
	5月	二つの戦争と大日本帝国	日清戦争と日露戦争 帝国形成期の社会		
	6月	帝国とデモクラシー	大正デモクラシー ヴェルサイユ体制とロシア革命	定期考査②	15
	7月				
	8月			デモクラシーの展開と帝国の変容	都市化と市民文化 東アジアの情勢と恐慌
9月	アジアの戦争と第二次世界大戦	日中15年戦争 アジア太平洋戦争	定期考査④	18	
10月	現代日本の源流	戦後世界と日本 冷戦と日米安保体制			
11月	冷戦のなかの経済成長	高度経済成長下の日本 経済大国			
後 期	12月	現代の日本	転換した世界のしくみ 現代日本の課題	期末考査⑤	17
	1月				
	2月				
	3月				

4 評価の方法

授業や課題に主体的に取り組むことができたか、また歴史の大きな流れやその背景が理解できたかを出席状態や授業態度、提出物、考査などにより総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切にし、板書を参考に自分なりのノートを作成する。教科書等の図表や史料を読み取り、自身の歴史的考察を深めるようにする。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 : 日本史B	単位数 : 4単位
------------	-----------

1 教科書・副教材

改訂版 高校 日本史B(実教出版)

2 科目の目標

日本の原始・古代から現代までの全時代を学び、自分なりの歴史の見方、考え方を培うことで、現代の日本、世界が直面している政治、経済、社会、文化等について自分なりの見方、考え方ができるようになること。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	原始・古代 文化と国家の形成	定期考査①	26
	5月	古代国家の確立		
	6月	中世 中世社会の成立	定期考査②	30
	7月	中世社会の展開		
	8月	近世 統一政権の成立	定期考査③	30
9月				
後 期	10月	幕藩体制の展開	定期考査④	36
	11月	近代国家の成立		
	12月	大日本帝国の形成 大日本帝国の展開 15年戦争と日本・アジア	期末考査⑤	34
	1月	現代 戦後改革と高度経済成長		
	2月			
	3月			

4 評価の方法

日本の歴史の大きな流れや各時代の特色を把握することができたかを確認する。授業について、主体的に取り組んでいるか、出席や授業態度、提出物、考査などから総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切に、板書を参考に自分なりのノートを作成する。また教科書等の写真や図など史料を読み取り、自分なりの歴史的考察を深めるようにする。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 ;	地理B	単位数 ;	4単位
--------------	------------	--------------	------------

1 教科書・副教材

教科書	新詳地理B (帝国書院)
地図帳	標準高等地図-地図でよむ現代社会- (帝国書院)

2 科目の目標

世界・日本の地形と気候を学び、気候による農業の違いに気がつくようにする。世界各国の気候・地下資源などによる農業・工業と文化の違いを学ぶ

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	世界の地形環境	定期考査①	26
	5月			
	6月	世界の気候環境	定期考査②	30
	7月		定期考査③	30
	8月	日本の自然環境		
9月	産業活動 (1)			
後 期	10月	産業活動 (2)	定期考査④	36
	11月			
	12月	村落と都市 衣食住 世界の地域の地誌	期末考査⑤	34
	1月			
	2月			
	3月			

4 評価の方法

授業に主体的に取り組み、系統地理および地誌の基本的な知識や地理的な見方・考え方がきちんと身についたかどうかを考査、提出物、授業中の発言などから総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 地図帳を毎時間持参し、地図を通して学習を深めることが大切である。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代社会	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書 最新現代社会新訂版 (実教出版)
 地図帳 標準高等地図―地図でよむ現代社会― (帝国書院)

2 科目の目標

主体的に授業に取り組み、現代の日本社会、世界情勢の諸課題や諸問題について理解する。またそれらに対して自分の考えを持ち、表現できるようになることや自分とは異なる考えに触れて、受け入れることができる力を身につける。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	私たちの生きる社会 地球環境問題	定期考査①	14
	5月	資源・エネルギー問題 生命科学と情報技術の課		
	6月	青年期と自己の形成 自分らしく生きる 人間としてよく生きる	定期考査②	
	7月	現代の民主政治と日本国憲 現代国家と民主政治	定期考査③	
	8月	日本国憲法の基本的性格		
9月				
後 期	10月	日本の政治機構と政治参	定期考査④	18
	11月	現代の経済社会と国民生活 現代の経済社会		
	12月		期末考査⑤	
	1月	日本経済の特質と国民生活		
	2月	国際社会と人類の課題		
3月				

4 評価の方法

出席・授業態度・提出物・考査等の取組状況を総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から新聞やニュースを見て、社会全般に関心を持つこと、また授業を大切にし板書を参考に自分なりのノートを作成し、自分の考えをまとめ、発表できるようになること。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 : 倫理	単位数 : 2単位
----------	-----------

1 教科書・副教材

高等学校 現代倫理 新訂版 (清水書院)

2 科目の目標

人間とはどのような存在か、人間がよりよく生きるためにはどうしたらよいかといった課題について、世界および日本の思想を学びながら考えを深めていく。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	現代に生きる自己の課題	定期考査①	13
	5月	人間の尊厳生き方と社会のあり方		
	6月	唯一神の宗教	定期考査②	15
	7月	古代インドの思想と仏教		
	8月	日本の思想の歩み	定期考査③	15
9月	近世の道徳			
10月	幕末から近代国家への移行	定期考査④		
11月	近代日本の模索			
後 期	12月	現代社会への道程	期末考査⑤	17
	1月	人間の尊厳		
	2月	近代科学と人間		
	3月	民主社会と幸福		
	3月	自己実現と社会参加		
		新しい時代への扉		
		現代の諸課題と倫理		

4 評価の方法

「思考力・判断力・表現力」、「知識・理解」、「関心・意欲・態度」について、出席状況、授業の取り組み、提出物、定期考査等により総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 過去の偉人の思想や宗教を理解することはとても難しいです。授業に向きあって内容の理解に努め、その上で自分の考えをもてるようにしましょう。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 : 政治・経済	単位数 : 2単位
-------------	-----------

1 教科書・副教材

教科書 新版 政治・経済 (実教出版)

2 科目の目標

現代の日本の政治・経済の仕組みや国際政治・経済の諸事項について、具体的な事例を取り上げながら理解を深め、自分なりの見方や考え方を育む。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	現代国家と民主政治 ▪ 民主政治の成立 ▪ 民主政治の基本原則 ▪ 民主政治のしくみと課題	定期考査①	13
	5月	日本国憲法と基本的人権 ▪ 日本国憲法の基本原則 ▪ 社会権と参政権・請求権 ▪ 新しい人権		
	6月	日本の政治制度と政治参加 ▪ 政治機構と国会 ▪ 内閣と行政権の拡大 ▪ 公正な裁判の保障	定期考査②	15
	7月	日本の政治制度と政治参加 ▪ 地方自治と住民福祉 ▪ 選挙制度 ▪ 世論と政治参加		
	8月	現代の国際政治 ▪ 国際社会と国際法 ▪ 第二次世界大戦後の国際政治	定期考査③	15
	9月	日本の平和主義と国際平和 ▪ 平和主義と自衛隊 現代経済のしくみ ▪ 経済主体と市場の働き ▪ 国民所得と国民福祉 ▪ 財政の役割と租税		
後 期	10月	現代の日本経済と福祉の向 ▪ 戦後復興から高度経済成長へ ▪ 安定成長からバブル経済へ ▪ 転機にたつ日本経済	定期考査④	18
	11月	▪ 中小企業と農業 ▪ 労働問題と労働者の権利 ▪ 社会保障の役割		
	12月	現代の国際政治 ▪ 外国為替市場のしくみ ▪ 国際政治の動向 ▪ 発展途上国の諸問題	期末考査⑤	17
	1月	▪ 経済協力と日本の役割		
	2月	現代社会の諸課題 ▪ 地域社会の変貌と住民生活 ▪ 雇用と労働をめぐる問題 ▪ 少子高齢化社会と社会保障		
	3月	▪ 人種・民族問題		

4 評価の方法

授業への参加、提出物、定期考査等を総合的に評価する。また各事項について、知識・理解・思考力を深める努力を評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 新聞やニュースを見て、社会事象全般に関心を持つことが大切である。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	教養社会	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

副教材 新編テーマ別資料 現代社会2017 とうほう

2 科目の目標

地歴公民科目全般を復習しながら、特に現代社会分野に重点を置き、国内外における現代の諸問題について関心を持ち、主体的に考え理解を深める。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	現代政治	定期考査①	13
	5月	現代政治		
	6月	現代政治	定期考査②	15
	7月	現代政治	定期考査③	15
	8月	現代政治		
9月	現代政治			
後 期	10月	現代経済	定期考査④	18
	11月	現代経済		
	12月	現代経済	期末考査⑤	17
	1月	国際社会		
	2月	国際社会		
	3月	国際社会		

4 評価の方法

授業への参加・提出物等の状況や、授業の内容を理解し、課題等について自分の考えをまとめ発表することができたかなどを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

日頃からニュースや新聞に触れて、社会のしくみや課題等を知ろうとする努力が大切である。

平成31年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国際社会と情報	単位数	1単位
-----	---------	-----	-----

1 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。

2 科目の目標

現代社会の情報化の観点から、国内外における現代の諸問題について関心を持たせるとともに主体的に考え、情報化社会を生きる力を養う。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	情報化社会の課題		6
	5月	産業構造の変化 社会生活の変化と課題		
	6月	国際社会の現状と課題		9
	7月	国際経済の仕組み 国際政治の現状		
	8月	日本経済の歩み 日本の農業と食糧問題 労働問題		
9月	貿易の仕組み	9		
後 期	10月	情報技術の仕組み		10
	11月	課題の調査 レポートの作成		
	12月			
	1月	発表とまとめ		5
	2月	プレゼンテーション準備 レポートの発表		
3月				

4 評価の方法

授業への参加や作成課題等の内容から、授業の内容が理解できたか、ねらいとする知識や技能が身についたかを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ろうとすることが大切です。